

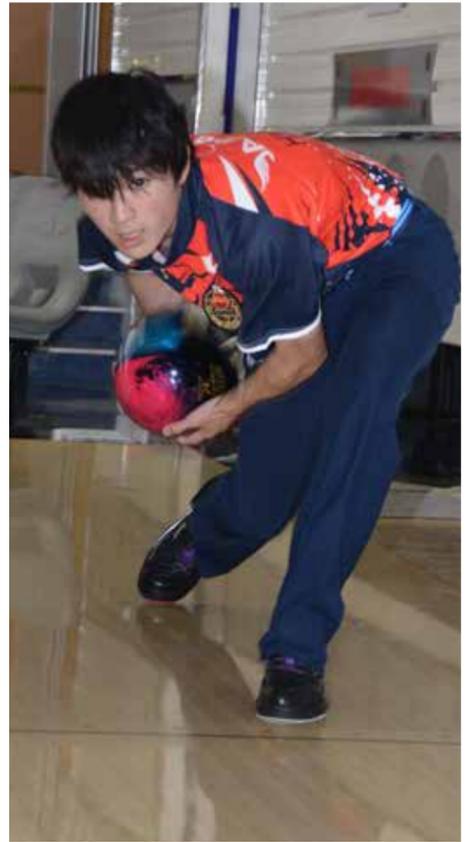
Close-up Interview (8月号 表紙の顔)



# 畑 秀明 選手

(全日本ユースナショナルチーム)

## 「東アジアスクール選手権では全種目で金メダルを持ち帰るつもりでした」



▲将来的にはナショナルチームフル代表として、世界選手権やアジア競技大会での活躍を誓う

本紙リニューアル後、男子選手として初の表紙を飾ったのは、昨年度から全日本ユースナショナルチームのメンバーとして活躍中の畑秀明選手。先日行われた第20回アジアスクール選手権(中国香港)では一人で5個のメダル(金3、銀1、銅1)を獲得し、国内ではユースチーム同僚の齋藤翔、菅野直人両選手とともに茨城国体ボウリング競技(10月1日~7日・フジ取手ボウル)のポスターモデルに抜擢されるなど、注目のダブルハンド・ボウラーだ。

### 初めてのボウリングは27点

—初めてボウリングをやったのは?

畑 小学校4年、10歳のときに両親と兄の家族4人で遊びに行き、行って投げたのが最初です。

—点数は覚えていますか?

畑 27点でした(苦笑)。そのときのスコアシートは今もとってあります。でも、それをきっかけにハマって、何度も投げに行くようになりました。多いときは週2~3回。最初のうちは家族で行っていましたが、1年ぐらいたったら一人でも行くようになりました。

—ボウリングのどこに魅力を感じたのですか?

畑 何だろう? とにかく、なかなか(ピンを)倒せないのが悔しくて、とりつかれたように投げましたね(笑)。

—スポーツ競技として投げ始めたのは?

畑 始めて3カ月くらいでマイボール、マイシューズを買って、そこからですね。

—本格的にボウリングをやることに、ご両親は賛成した?

畑 最初、マイボールはなかなか買わせてもらえなかったですね(苦笑)。毎日のように頼み込んで、押し切ったカタチです。

—センターのボウリング教室に通ったりしたのですか?

畑 最初のうちは行っていません。今はもうここ(川崎グランドボウル)にはいないんですけど、福山(武士=41期)プロが先生でした。もう8年前のことです。

—スコアは上がった?

畑 なだらかに、少しずつという感じで、急激に上がることはなかったですね。最初買ったマイボールは11ポンドだったんですけど、JBCに入ったとき、福山プロから13ポンドのボールをもらって、それで投げられるようになってからビュン!と上がりました(笑)。

—JBCに入会したのはいつごろですか?

畑 5年生のときです。全小(全日本小学生競技大会)の予選会に出て、本選に行くにはJBCに入らないといけなかったの。

—小学校5年生で全国大会デビューしたわけですね。そのときの成績は?

畑 はっきり覚えていないくらい下のほうでしたが、6年生のときは5位に入りました。

—ちなみに、両手投げはいつごろから?

畑 マイボールを持って1カ月

くらい経ったころ、ボウリングを始めて4カ月目ですね。

—何がきっかけで?

畑 YouTubeで両手投げの選手、ジェイソン・ベルモンテとかの映像を見て「ああ、こういう投げ方もあるんだ」と思って、試しにやってみたらいきなりスベアが取れたんです。それで「これ、イケるじゃん!」となった(笑)。



▲2016年は、写真の茨城国体少年の部個人戦や中学選手権優勝などで、一躍全国区に

### 何でもできる選手になりたい

—7月の東アジアスクール選手権は素晴らしい活躍でした。

畑 ありがとうございます。今回は最初から金メダルを5個、シングルス、ダブルス、4人チーム、オールイベント、マスターズの全種目で持ち帰るつもりで行ったんですけど、ダブルスとマスターズを落として3個どまりでした(苦笑)。

—満足はしていない?

畑 そうですね。マスターズは何とかなったと思うので、4個はいきたかったですね。

—昨年は世界ユース選手権(アメリカ・デトロイト)にも行きました。

畑 そうですね。マスターズとチーム戦で3位、銅メダルを獲って自信になりました。

—世界のボウラーの印象は?

畑 日本人とは全然力が違いますね。国内の全国大会の何十倍も衝撃と刺激を受けました。

—ボールのスピード、強さも違う。

畑 自分も両手投げなので、ボールは強いほうですが、片手で投げている自分と同じラインを取ってくるような選手がいて、ビックリしました。

—国内では、茨城国体のポスターモデルを務めていますね。

畑 ブロック予選の日程がPBAジャパン・インビテーショナルと重なって、自分は投げているんですけど、神奈川はすべて通りましたよ(笑)。

—インビテーショナルのほうに出たのですね。結果は?

畑 よくなかったです。自分の力は全部出し切ったつもりですが、周りの選手がすごすぎて、差を感じるばかりでした(苦笑)。

—課題も見えたのでは?

畑 何でもできる選手になりたいと思いました。外から真っすぐ投げたり、軸やボールのスピードを自在に変えられたり。あとはコントロールですね。

—今後の目標はどのあたりに置いていますか?

畑 一つ上のナショナルチームで、世界一を目指したいです。

—プロを目指す気持ちは?

畑 それはまったくないです。小さいころは憧れもありましたが、中3のときに全中(全日本中学選手権)で優勝して、ユース

スによばれてからは、それがナショナルチームに変わりました。

—となると、高校卒業後の進路は?

畑 就職です。受けるところも決まっています。ボウリング部のある会社ですが、一般の高校生として試験を受けます。

—そうですね。凱旋試合となる10日後の高校選手権(本稿の取材日は7月19日)は、ここ川崎グランドボウルでの開催。畑選手のホームグラウンドだし、周囲の期待も大きいのでは?

畑 そうですね(苦笑)。最近、国内の大会ではあまり活躍できていないので、いい結果が出せるように、しっかり準備して頑張ります。

※残念ながら18位という結果に終わり、有終の美を飾ることは叶わなかった。

(取材協力:川崎グランドボウル)



はた・ひであき/2001年11月20日、神奈川県生まれ。湘南学院高3年。173cm、両手投げ。競技歴8年。主な優勝歴:16年=第40回全日本中学選手権、第71回岩手国体少年男子個人戦/17年=第72回愛媛国体少年男子団体戦/18年=第56回全日本選手権3人チーム戦/19年=第20回アジアスクール選手権4人チーム戦、シングルス戦、オールイベント